

第31号

広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

教養課程の改革について

自主的・創造的な

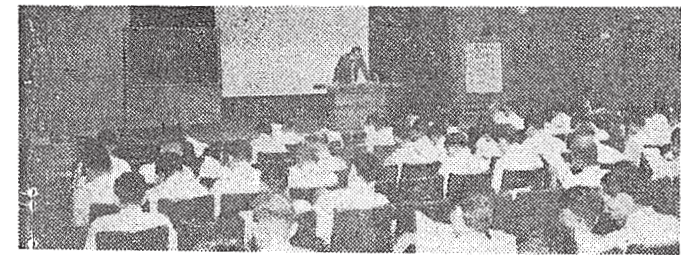
学習態度を

一 はじめに

私はこの広報委員会から手紙をいただいた方々から、教養課程の改革について、多くの質問や意見をいただきました。その中で、最も多く寄せられたのは、「教養課程とは何か」という問いです。これは、大学教育の根幹をなす問題であり、我々教員も日々この問いに答えようとしています。以下、私の見解を述べさせていただきます。

二 関西大学における教養課程の改革の経緯

語の順序として、改革の経緯と、自身の個人的な見解を述べさせていただきます。私は、教養課程の改革は、大学教育の根幹をなすものであり、我々教員も日々この問いに答えようとしています。以下、私の見解を述べさせていただきます。



「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

研究成果を発表

公害防止技術講演会

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。



副学長 藤井啓行

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

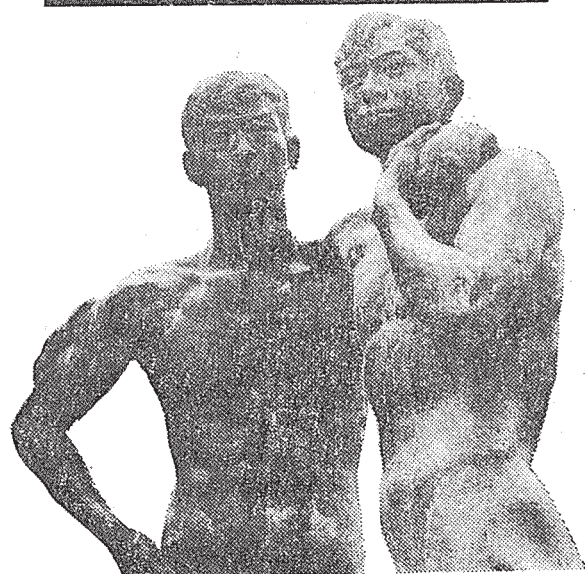
「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

「公害防止技術講演会」の模様。講師は、公害防止技術の専門家であり、公害防止の重要性を強調しました。

わが青春の



転地療養で会った人

中村恒雄

スペインかぜというインフルエ
ンザが猛烈な勢ではやったのは、
今から五十年あまり前の事であ
る。この流行性感冒は甚だ悪性
で、非常にたくさんの方が死に

どこの火葬場も超満員であったそうであるが、それでも三月、私がかかり、幸い火葬場ゆきにはならなかったが、七月の入試はもううん受けられなかった。しかもその後三年間、秋から冬にかけて城ヶ

を営んでいひさんと特に親しくなり、近くを一緒に散歩したり、時々午後には銭湯につれたって行ったりした。(今でも、この両氏とは学会で上京の時、必ず一夕会食を開いて下さった。さらにこの世の中の無常運連に対してもうさきによって私は眼を開いたといえよう。もちろん文学面だけならば、中学時代に高校入試のためあつ

靜高に入学して間もなく、私は徴兵検査のために帰京し、その検査がすんだ直後、母が脳溢血で急死してしまつた。しかもその年の九月一日にあの関東の大震災である。(文学部教授)

さて、私が多少とも學問らしい問題に興味をもち始めたのは大学予科から学部初年度にかけてのこと、対象は西歐の中世からルネッサンス時代へかけての研究と

七先生はゼミを募集しないといふので、私は熟考の後、これまた大胆にも山内得立先生の哲学ゼミを選択することに決心した。私の多望申し出に対し、先生は中途半端

草について
の動向報告
をお願ひし
だいた。諸君それぞれに「よ
た。劣を謝
き出合い」のあらんことを」

青春、「経済史」と記 合わざるの記

矢口孝次郎

の経済史との出合いは比較的遅

ところで、こうして勉強の入口になってきた。私はそんな気持ちいい。(経済学部教授)

編輯後記

したい。

私にとつての學問

井本稔

大正の終わりから昭和のはじめにかけて私は徳島高等工業学校応用化学科の学生であった。中学校で化学には大抵い六〇点にならないうのは何ものにも代がたい喜びであった。化学にはなじみぬから、図書館には文学本ばかりの事柄で化学の学生になり、化学が好きなならない、などという自分か何者なのかと考えるほど、

一部であるとは聞き知っていた。学問と芸術とを尊敬するところこそ人間であることの証明だ、などと生意氣なことを言ったこともあった。化学が単に教科書とむねごとでなくなり、実験室の作業でものは余りに高きにすぎ、そこ

たのである。……ところが、私の郷里で検査をすませ、一週間ど経て学校に帰ったところ、意にも、この私の曲が当選曲となり、昼食時を利用して講堂で、その曲の練習がすでに始まっている。

生れたいわば私には全くの偶然
の子である。にもかかわらず、そ
の七月、この新歌曲を擁して大華
金沢の地に遠征し、大差をもって
勝利をおさめ、尾山城下を凱歌も
高く乱舞・震憾したことは、や
とである。偶然だったこの曲が

村上不二雄教授(文学部)七
十九日
後零時
十五分
直賜方
のため
阪市浪

応援歌

植田重正

を過ぎてもいぬあひでは、仕事がおもしろいとこのわけにはいかなかった。

学校のクラスはすばらしい。すぐれた友人がいて、ク

そのころである。ロマン・ローランの「ジャン・クリストフ」にぶつかったのは、この大層は自己に打ち勝つこと無しに、何事にも自己を近づけることはできない。

大正一四年五月半ばのことである。学校の掲示板に、四帖とて定期野球戦にそなえ、前年度についで公募された応援歌の中から、

Ｔ君の作詞が当選歌として発表され、併せてその歌詞に対する曲を公募する、という掲示があった。Ｔ君は、当時八高の現役の選手であり、かつ中学での私の一年生輩で、幼時から共に野球仲間だったので、仲間であったので、フット親しさを覚えて曲を附してみることにな

「わが奇書の『出会い』」を要
われたのに対し、つむじ曲りのの
うで申し訳ないが、上記のよう

しかしこの感落も、この年が濃の限まで畑倉の住である。また

で毎週先生に接するのが苦しく
り、裏切りのようにさえ感ぜら
たので、ついに意を決してその

な回社なながのーヌは第主文一ーな新し案(これな又れ教飯れ二週大ノ、五牛月二で起の題